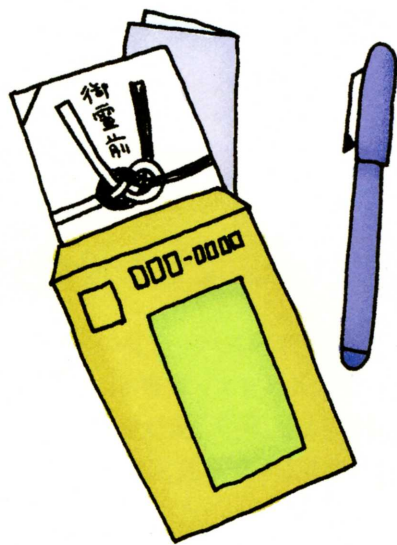


御香典の 表書きとは

昔は各自がお香を持参して仏さまにたむけていました。今はお香を持参するかわりに、お香の費用を御香典という形で包むことになったのです。神式の場合には、お香ではなく玉串を霊前に供えるので「御玉串料」というわけです。キリスト教の場合は花を供えるので「御花料」となります。

御香典を 郵送する場合

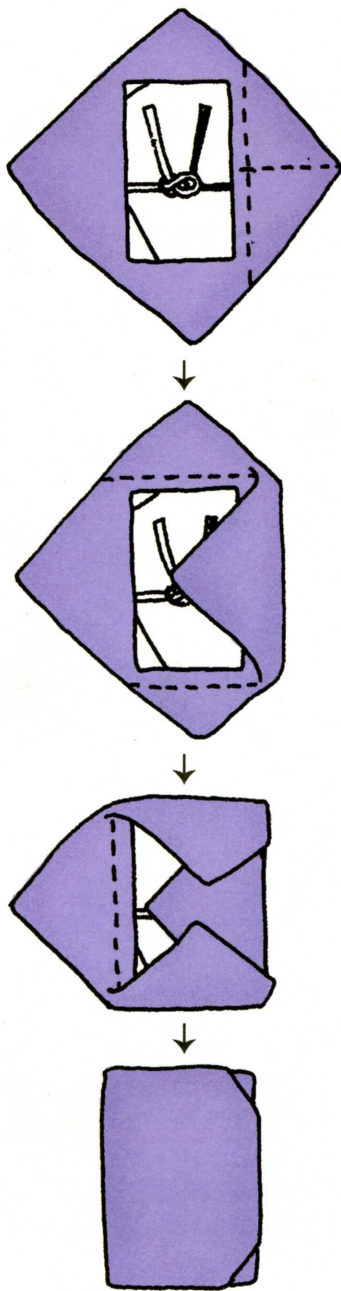
通夜・告別式とも出席できない時には現金書留で御香典を郵送します。この場合、まず、現金を御香典袋に入れてから現金書留の封筒に入れます。その際には出席できない理由と、故人を偲ぶ手紙を添えたほうが心がこもるでしょう。



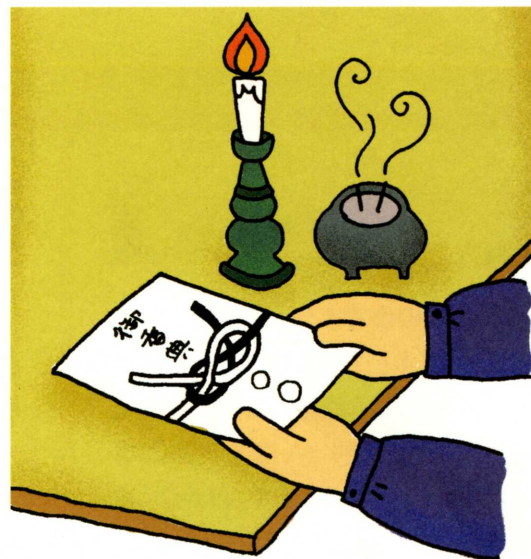
御香典の出しかたの注意点

御香典は遺族の方が後で整理しやすいように出すことが重要です。住所や氏名は見やすいように書きたいものです。また金額もはっきりと書くようにしましょう。

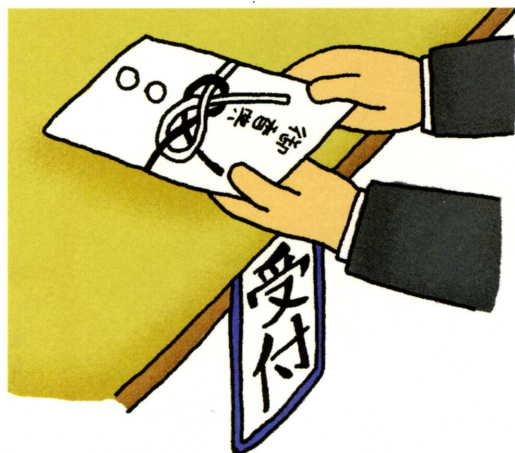
ふくさの包み方



御香典の供えかた



御香典をご霊前に供える時は、表書きが自分から読める方向にして供えます。



受付で係りの人に渡す場合には逆に、係りの人が読める方向にして渡します。